2015年（平成27年）
第99号
（3月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

WCRP 国際委員会「トラスティーズ総会」・日本委員会「新春のつどい」

１月27日、東京都杉並区の本部・大聖堂において、**「平成 28 年度　WCRP(世界宗教者平和会議)インターナショナル・トラスティーズ　日本グループ総会」**が開催されました。京都教会からは、同グループのメンバーである田中規之渉外部長と古田雅章渉外部スタッフが参加し、全国から集まったメンバー約 40 名と共に、昨年度の報告や今年度の事業予定などが協議されました。

総会の席上、同グループの日頃の支援に対して、WCRP 国際事務総長のウイリアム・ベンドレイ師と、WCRP 国際共同議長の庭野光祥師からの**謝意を伝えるメッセージ**が紹介されました。総会に引き続き、WCRP 国際評議員で同グループ相談役でもある酒井教雄師を講師に学習会が行われ、WCRP 創立の経緯やインターナショナル・トラスティーズの役割などについて、学びを深めました。

また今年は、**「WCRP の国際的認知度の向上と財的支援」**を目的とした同グループが誕生して 10 年目の節目の年でもあり、**「もう一度原点に帰り、庭野開祖が願われた世界平和の実現のために、引き続き取り組んで参りたいと思います」**と語り、支援を続けて行くことの大切さを確認しあいました。

学習会終了後、本会法輪閣で開催された WCRP 日本委員会主催の**「新春のつどい」**に参加し、会員同士の交流を深めました。中村憲一郎本会常務理事の司会のもと、WCRP 日本委員会の庭野日鑛会長が開式の辞を述べ、一燈園の西田多戈止当番、WFP(国連世界食糧計画)のアンダーソン日本事務所代表、藤田幸久参議院議員(民主党)などによる鏡開きがありました。

また、来賓を代表して、**「ＷＣＲＰ国際活動支援議員懇談会」**の共同議長を務める、民主党代表の岡田克也衆議院議員、同懇談会幹事長の逢沢一郎衆議院議員(自民党)らがあいさつに立ちました。また、岡田代表と共に議員懇談会の共同議長を務める自民党の谷垣禎一幹事長からのお祝いのメッセージも紹介されました。

現在、世界各地で起きているテロによる無差別攻撃に対し、和平に向けての取り組みを積極的に進めて行けるように、**政治家と宗教者が手を携えて取り組むこと**の大切さを改めて感じた一日でした。

時事刻々

本紙は今回で九十九号、次回は百号になります。人間の歳で言えば『白寿』です。一号ずつ積み重ねて、ここまで来ることができたのは、読者の方から激励を数多くいただいたことにほかなりません。今後もご愛読のほど、よろしくお願い致します▼ところで百回目というと、昨年、百歳以上の方がはじめて六万人を超えたと、厚生労働省が発表しました。五十年前に比べると三百倍以上も増えています▼これだけ長生きできるようになったのは、医療技術や予防医学の進歩や食生活の充実などが貢献しているからだと言われています。さらに平和で安心できる世の中であることが大切でしょう▼仏教は本来「不殺生戒」を説き、殺戮行為である戦争は最も否定されるものです。しかし、先の戦争では宗教界が戦争に協力しました。二度と繰り返してはならないことです▼本紙のテーマは「平和」と「安心」です。これからも世間の動きをしっかり見極め、宗教者としての行動をとっていきたいものです。

今月のことば　～悪いことはしない～　　教務部長　　竹岡千賀

今月は、教務部長の竹岡が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

節分も終わり、二黒中宮の年を迎え、新たな気持ちで『佼成』３月号会長先生のご法話を学ばせて頂きました。私の受け取らせて頂いた分だけ、読んで頂けると有難いです。

今月のタイトルは、**『悪いことはしない』**です。最初に感じたのは、**『悪いことをしない』**とどう違うのだろう、という疑問でした。

まず、善悪の定義は難しいけれども、**「真理、法にそった言行が善であり、自他の命の尊厳を軽んじる言行が悪である」**と教えて頂きました。そして**「悪いことをしないのは、悔いのない日々を送るためであり、そうすれば、心がいつも晴れ晴れとして楽しく、充実した毎日がすごせる。これ以上の幸せはない」**と教えて頂き、改めて幸せは自分の物の見方、心次第、つまり**『すべては自分』**なのだと受けとらせて頂きました。

後段では**『善いことをする』**との題で、**「私たちは、悪いことをしてはならないとわかっていても、ときとして嘘をついたり怒ったりします」**との会長先生のお言葉に、「そうそう、そうなんですよ」と思わず叫んでしまいました。

また、道元禅師のご解釈にも驚きを禁じ得ませんでした。**「諸悪莫作」**は多くの場合、**「諸悪をなすことなかれ」**と命令形で読まれるところ、道元禅師は、仏道を歩み、自他の命の尊さを自覚して生きると、おのずから悪いことはしない、との意味だと言われるのです。ここで初めて、私は**『悪いことはしない』**と**『悪いことをしない』**の違いがわかった気がしたのです。

『悪いことをしない』のは、自分の意思によるが、**『悪いことはしない』**というのは、仏さまの教えのおかげさまで、悪いことはしない生き方ができることへの感謝だと。そして、私たちが善悪に迷ったときのバロメーターにと、教えて下さったのが次の一文かと思うのです。**『ある行為をして後悔せず、うれしく喜べたなら、その行いは善い』**ここに私は、会長先生のお優しさと温かさを感じて胸が一杯になりました。

最後に、今日、聞かせて頂いた感動をお分けして、終わらせて頂きます。ある方のお孫さんが下着泥棒を捕まえたのですが、仕返しされるのではないかと心配になって、教会長さんにご指導を頂かれたところ、**「泥棒さんのご先祖さまが悦ばれているのではないですか。悪いことをしているうちの子孫を誰か止めてくれないか、と思っていたところ、止めてくれたのだから。」**とおっしゃったそうです。

その方はそれを聞いて、**自分の子孫が、よそさまのご先祖さまに悦んでもらえる行いをしたのだと、悦び、感動し、安心されて**私にも伝えてくれたのです。伝えて頂いた私も嬉しく有難く、幸せでした。

これからも仏さまの教えを学び、善いことをして、悔いのない日々を送りたいと思います。　　合掌

インターフェイス駅伝２０１６　～平和を願う祈りの駅伝～

２月21日(日)に**「インターフェイス駅伝」～平和を願う祈りの駅伝～**が行われました。

「インターフェイス駅伝2016」は、異なる宗教者（例：仏教・神道・キリスト教・イスラム教等）が４人で１チームをつくり、世界平和を願うタスキをつなぎながらゴールを目指す駅伝で、「ルクセンブルグING ナイトマラソン」で開催されているものを、京都マラソンの中で駅伝として開催するものです。

「インターフェイス(InterFaith)」は日本語では**「諸宗教間交流」**と表現され、この駅伝をきっかけに宗教の枠を超えて、ともに世界平和を願うことを目的としています。

今回は前回と同様に40人１０チームの宗教者が参加しました。京都教会からは、古田雅章渉外部スタッフが選手として、約10キロの道のりを完走しました。

京都佼成議員懇話会開催　～正しい言葉づかい－八正道を学ぶ～

２月18日、京都教会において**「京都佼成議員懇話会」**が開催され、約20名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った同懇話会幹事長の植田喜裕府議(京都府議会議長)は、長年取り組んでいる**「京都府沖縄戦没者慰霊塔奉賛会」**の話に触れ、**「沖縄京都の塔がある嘉数高地は、第二次大戦中に藤岡中将率いる約千人の防衛隊で編成された、自然の要塞の上に堅固な陣地構築がなされた場所で、１６日間も一進一退の死闘が展開された地です。日米両軍とも、多くの尊い人命を失った激戦地です」**と述べ、これからもこの慰霊供養を続けて行く決意を語りました。

この懇話会は、京都府議会と市議会の超党派の議員で構成され、２ヶ月毎に平日の朝７時から開催されています。参加議員からは日頃の議員活動で感じた事や、プライベートな話なども披露され、終始和やかな雰囲気の中で進められました。

最後に、佐藤益弘教会長より、「今日の皆さまのお話を聞かせて頂いて、**正しい言葉づかい**の大切さを学ばせて頂いたように思います。皆さまのように正しい言葉づかいをすると、次は**自然に正しい行為**へとつながっていくのではないでしょうか」と、仏教に説かれている**「八正道」**の教えを実践することの大切さを述べました。

この後、食堂に移動。支部長や会員が早起きして作った手作りの朝食を頂き、散会となりました。次回は４月14日(木)の予定です。

”沖縄京都の塔”とは

昭和39年4月29日、「京都府沖縄戦没者慰霊塔奉賛会」が、京都府出身沖縄戦線戦没者2,538柱の御霊の冥福と世界恒久平和を祈念して、玉砕の地、宜野湾市嘉数ヶ丘に建立されました。

碑文には、『昭和20年春、沖縄島の戦いに際して京都府下出身の将兵2千5百3拾有余の人びとが、遠く郷土に思いをはせひたすら祖国の興隆を念じつつ、ついに砲煙禅雨の中に倒れた。

また多くの沖縄住民も運命を倶にされたことは、誠に愛惜に絶へない・・・・・・』と記されています。

塔の石材は京都市左京区鞍馬から産出した「鞍馬石」を使用しています。碑文「京都の塔」は三輪晁勢氏により書かれたものです。

京都・祇園祭ボランティア２１総会　～加盟団体の力を合わせて～

２月２２日、**「京都・祇園祭ボランティア２１」**の平成２８年度総会が、京都市男女共同参画センター「ウィングス京都」で行われ、京都教会青年部を含む加盟２５団体の代表者が出席しました。前年度の事業・決算報告、役員改選、次年度の事業・予算について審議されました。

引き続き、次年度も植田恭司渉外部スタッフが情報ネットワークの副委員長に選任され、祇園祭当日は無線担当として祭りの運営を陰ながら支えることになりました。今後、毎月の準備委員会を重ねていきながら、７月の本番を迎えることになります。

平和の要件のひとつ「人権」について　～庭野開祖著『平和への道』より～

庭野開祖は、平和の要件のひとつとして「人権」をあげています。このことについて、前回に引き続き、庭野開祖の著書から紹介していきます。（編集部）

平和の一つの要件は、**人間の尊重・擁護**ということです。すべての人が生きる権利を平等に持った存在であることを、お互いに認め合い、尊重し合い、形の上でも、その権利を守り合うということです。

このようにして、**お互いの間に憎悪・侮蔑などの感情がなくなり、人間対人間として対等につきあい、仲良くなってこそ、世の中には真の平和が訪れるのです。**

人権の侵害は、平和の問題と直接つながるものです。抑圧と差別に苦しんでいる人びとは、せめて人並みの生活をかちとるために、いや、それよりも耐えがたい侮辱からのがれ、人間の誇りを回復するために、死を賭して立ち上がります。そして、多くの人の血が流され、命が奪われる結果となるのです。

ですから、世界に平和を実現するためには、人権の問題をおろそかにすることは許されないのです。とりわけ、われわれ宗教者がこの問題についてウヤムヤな態度をとるならば、宗教の真実性は地に堕ちてしまうことでしょう。なぜならば、どの宗教においても**「人間の平等」**こそ、教義の根幹をなすものであるからです。

交通網が発達し、地球が著しく小さくなった今日、そして他の天体から地球を一つの星として眺められるようになった今日では、**地球は一つの船であり、その上に住む人類はみな兄弟、**という表現が如実に理解できる時代になっているのです。ですから、**人間のつくった国境とか皮膚の色の違いでいがみ合うのは、まことに愚かなこと**といえます。

数年前にローマ教皇パウロ六世が演説されたなかで**「すべての宗教は人類の救済を目指すべきであって、そのためには人類すべてを己が隣人と見ることが大切である」**といわれたのを記憶しています。

わたしども仏教徒にとっての教主・釈尊は**「人間の尊さは生まれによって決まるのではなく、何をなしたかという行為によって決まる」**といった意味のことを申されております。

こういうわけですから、先進国といわれる国々でも、この人権という問題については、いよいよ深く自省し、その改善に努力していかなければならないと同時に、いわゆる開発途上国に対しては、産業・経済面の開発とともに、それらの国の人びとの人権の擁護・確立について、大いに力を貸してあげなければなりません。それでなくては世界に真の平和はやってこないのです。

ところで、ここでぜひ一言しておきたいのは、**宗教家の一つの大きな役目として、人間の権利思想の行き過ぎにブレーキをかける活動が必要**であるということです。といえば、人権の確立とは逆のことを言っているようですけれども、けっしてそうではありません。

人権には、財産を持つ権利とか、自由にものを言う権利といった、いろいろなものが包含されているのですが、ともすると、**自分が持つ権利ばかりを振り回し、それが他の多くの人びとに迷惑をかけることがあってもいっこうに顧みない人**がおります。もし、そんな人が世の中に充満するようなことになりますと、当然の結果として、お互いの権利の主張と主張が衝突し、摩擦し、争いが絶えることがありません。

そこに宗教でなくてはできない役割があります。**愛と寛容を教える宗教**によって、多くの人びとの幸福のために自らの権利を犠牲にすることも辞さないという精神を養ってこそ、そして、そういう精神の持ち主が多数を占めることになってこそ、真の世界平和は実現するのです。

３～４月の主な教会行事

３月１日（火）	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日（金）	9:00～	開祖さまご命日
５日（土）	9:00～	創立記念日
10日（木）	9:00～	脇祖さまご命日
15日（火）	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
４月１日（金）	9:00～	朔日参り・布薩の日
３日（日）	9:00～	花まつり
４日（月）	9:00～	開祖さまご命日
８日（金）	9:00～	降誕会
10日（日）	9:00～	脇祖さまご命日

●メッセージ

３月５日は創立記念日。昭和１３年に創立された本会は７８年を迎えます。私たち会員にとって非常に大切な日の一つです。「人を救い、世を立て直す」という庭野開祖の大決意のもと、脇祖と３０余名の会員は当時の悩みである貧・病・争に方便を用いて一人一人をお救いされてきました。その結果が今日の佼成会になったといえるでしょう。そういう歴史を見たときに自分自身は単にお役を果たすことだけになっていないか、人格を磨きながら、手取り・お導きの基本信行も大事にできる会員でありたいと思います。